

北陸新幹線の開業で

北陸本線はどのようなようになる

6月2日、富山市でのシンポに行ってきました

6月2日、富山市で「北陸新幹線の開業で北陸本線はどのようなようになるPart2」(主催:公共交通をよくする富山の会)というシンポジウムがあるというので行ってきました。約50名の参加。現地のマスコミがおおいに注目し、取材をしていました。

4つの報告がありました。

一つ目は、草卓人「富山の会世話人の『北陸本線の昔と今』」でした。富山県内の鉄道網についての歴史ですが、実現したもの、しなかったものなど北陸線を中心としてたくさん鉄道の計画があり、今日に至っていることが示されました。考えさせられたのは、「このエネルギーは何だろう」ということ、富山県で工業が発達しているのは、そうした影響の名残かと思いました。

二つ目は、「経営分離後の並行在来線のあり方について」で、報告者の吉田秀之氏は富山県知事政策室総合交通政策課主幹です。この報告で、上越市が行った調査・研究と同じようなことを富山県が行っていることに驚きました。新潟県

とは大きな隔たりがあると思いました。平成7年から17年までの10年間の利用者が、鉄軌道では4479万人から3226万人へ72%の減少であるのに対し、バス輸送は2077万人から1060万人へと51%に減少しているということでした。在来線を廃止してバスに切り替えるというのは、最悪の選択だと思います。

第三の報告は、在来線を守る三市連絡会の大平淑正事務局長の「新潟からみた信越本線と北陸本線の展望」です。私たちにとっては「当たり前」の話でしたが、富山県の参加者にとっては初めて聞く話だったようで、注目が集まりました。

最後に報告したのは渡辺眞一富山の会世話人で、「創造的な並行在来線・北陸本線のために提言」です。富山の会では2回にわたって提

言を発表しているのですが、その詳しい説明でした。私が注目したのは、JR西日本の株主についての言及でした。金融機関が41%を占めていますが、外国法人が34%も占めているということです。日本の鉄道でありながら外国資本に支配されつつあるということです。「国鉄分割民営化」の実態でもあります。

フリー討論になって会場から出された質問が、昆風の並行在来線廃止提案のことでした。私に振られてきましたので、説明をさせていただきます。「最大会派の提案」議会議定」と捉えている人が如何に多いことが、実感させられました。



モンキアゲハ(3日、中ノ俣にて)

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2007年6月10日 147
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832